

～歴史ある浪速武道館と相撲～ 力士とアマチュア選手の模範稽古を実施しました



かつて大相撲春場所開催時には、田子ノ浦部屋との交流が深かった大阪市立のもと浪速武道館。昭和55（1980）年の開館から定期的に相撲大会などを開催されるなど30年間にわたって子どもたちの健全育成に寄与してきましたが、市の方針で平成21（2009）年に閉館しました。市は跡地を売却する方針を示したものの未利用の状況が長年継続していたため、武道館1期生で大阪市相撲連盟会長の朝井英治さんは、多数の支援・協力を得て武道館復活に向けて奔走。昨年2月、市に相談の上、自費で武道館を借り受け、8年ぶりに「浪速武道館記念相撲大会」を開催することができました。

市の売却方針が変わらない中、朝井会長は「今回が最後」と一念発起。今年2月も武道館を自費で借り受け、力士とアマチュア選手との模範稽古を開催しました。集まった子どもたちの表情は、その迫力に真剣そのもの。稽古後に開催したわんぱく相撲体験では、真剣な表情が一転し、子どもたちの歓声がわきあがってきたのが、とても印象的でした。

大阪では春場所を目前に相撲が盛り上がっています！

【朝井英治さん 略歴】

浪速武道館設立時の相撲部1期生として小学5年から中学3年まで武道館で相撲を学び、近畿大学附属高校相撲部や近畿大学相撲部で主将を務めた。平成5（1993）年春に宮城野部屋から初土俵。怪我に悩まされ幕下11枚目を最高位に平成8（1996）年春に引退。以来、浪速武道館相撲部監督、大阪府相撲連盟理事長、大阪府立勝山高校相撲部監督を務めた。現在は大阪市相撲連盟会長として、ボランティアでアマチュア相撲の普及活動に心血を注いでいる。

【大相撲春場所】

初 日：平成30年3月11日（日）
千秋楽：平成30年3月25日（日）
会 場：エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育館）

【歴史ある浪速武道館と大相撲の親方との関わり】

- ・昭和55年開館時の土俵開きには、第9代宮城野親方（元小結廣川）来館。
- ・浪速武道館との交流が深かった頃は、第14代田子ノ浦親方（元前頭筆頭久島海）や弟子が浪速武道館相撲部の子どもたちを熱心に指導していた。



現役時代の朝井英治さん



わんぱく相撲体験教室に集まった子どもたち



表彰式（尾上親方（元小結濱ノ嶋）から表彰状授与）



浪速武道館で8年ぶりの相撲大会



平成29年2月浪速武道館記念相撲大会



おおさか歴史探訪 121

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

造幣局旧正門 — 明治時代の小さな語り部 —

今年は明治維新150年ということで、各地で記念行事があります。また、NHKの大河ドラマも西郷隆盛を主人公とするなど、明治という時代に関心が集まっています。桜の通り抜けでも知られる造幣局、その建設がはじまったのがまさに明治元（1868）年のことです。かつての造幣局は、敷地面積約18万5千平方メートル、現在の造幣局敷地の約2倍あり、東京ドームにして約4個分という巨大な洋式工場でした。

明治4（1871）年2月15日（陽暦4月4日）に造幣局は完成、その応接所として泉布観が造られました。工場の中心部である金銀貨幣鑄造場は泉布観の南約250mにあり、昭和10（1935）年にその正面玄関部分が移築されて、明治天皇記念館として泉布観の北側に建てられました。今も結婚式場「旧桜宮公会堂」として使われています。

かつての造幣局は大川に面した側が正面で、鑄造場玄関の真正面に正門が設けられていました。その創業当時の正門が今も残っており、平成27（2015）年9月、「旧造幣寮」が国指定史跡となったときには、その構成要素の一つとなっています。門には鑄鉄製の門柱があり、菊の紋と大阪の「大」の字3つを円形に組み合わせた文様が見られます。また門の両サイドには八角形をした衛兵の詰所がそれぞれ附属しています。その扉口やアーチ窓に鑄造所玄関との共通点が認められるように、この詰所も泉布観・鑄造所玄関とともにアイルランド出身のお雇い外国人T.J.ウォートルスの設計によるものです。見過ごしてしまいそうな小さな建物ですが、桜の通り抜けや造幣博物館の見学の際に、この旧正門の語りにも耳を傾けてください。



造幣局旧正門



旧正門横の顕彰碑

（大阪市教育委員会 文化財保護課）